

人間模様

□人間模様〈第十五回〉

ひたすら自己をみつめる／洋画家

鴨居 玲

重森 守 〈元朝日新聞神戸支局長〉題字／望月美佐 写真／米田定蔵

不思議な魅力を、その五体から漂わせているひとだ。深く、あったかくて、時にはひどく憂愁に満ち、しかも男くさい体臭がぶんぶんにおってくるような――。

もう六、七年前、何回か三宮の小さなスタンドで会って、その魅力のトリコになった。だから「神戸っ子」から「今度は鴨居さんを……」と注文があったとき、即座にいった。

「僕はあの人に惚れているから、悪口も皮肉も書けないなあ。きつと、原稿はメロメロで、しまらないものになっちゃうよ」

というわけで、面白くなかったら、ゴメンナサイ。

最初はブラジルからバリへ十年近い外国ぐらし。二度目はスペインの片田舎で五年間。そして先月、ふらりと帰国するや古巣・神戸の東灘に落ちついたばかりだ。

「放浪画家」とはいえないでしょうけど、五年ぐらいの周りで漂ってるって感じですねえ。

「放浪じゃないス。堅実なんです。(フツと苦笑して) 新聞記者としての親父の転勤について歩いて、小学校は三回もかわったし、動くのは子どもものころからの生活のリズムでしてねえ、ごく安易にルンペンになってしまいうんですよ」

「自分を見失った」三十歳のころ、ブラジルの地の果て

へ渡ったときは一日一回パンをかじるだけ。ひとのいやがる死体置場の壁面をかって千ドルかせぎ出し、パリへの飛行機代をひねり出した「実績」を持つ。

「でも、私は臆病だから、とても破壊型にはなれないですよ。ただ、周りがあまり静かで安定してくるとダメなんです。なにか事件に触発されてないと描けない。だから、同じ町にいても一年に一度は引越したりしてね……」

昭和会優秀賞、安井賞、文部大臣賞……と数々の賞に輝き、バリ日動画廊で個展まで開いた鬼才の、なんというナイブさ。

「いや、絵に限らず、なにかモノをつくるってのは大それたことです。だから、私生活のなかで何ひとつ犠牲にしないまま続けようというのは厚かましいんじゃないですか」

創造の重さ――それをこのひとが口にする、ひとときわこちらの胸にのしかかってくる想いがする。

「絵を芸術と呼ぶのはちょっと恥ずかしいけど、この世界では一級、一流の作品しかいらんじやないか。誤解されることはだけど、それ以外の人や作品は歴史から忘れ去られて当然だと思うんです。私は血のめぐりがわるいから(一流をめざす)思い上がりを持続してるだけのことです」

いや、持続しきれずに絵筆を捨てようとし、挫折感から死さえ考えたことも再三あるらしい。そういうまっすぐな、暗い緊張感が、このひとの作品のすべてに塗りこめられているような気がする。

猫背の老人、サイコロとたわむれる男、首つり、廃兵……人生のどん底でうごめく、生気を失ったような老醜の群れ——。「絵」を理解する力のない僕でさえ、デッサンの確かさと重苦しい迫力に圧倒されてしまうのだ。どうして、あんな暗い絵ばかりなんですか？

「人間の持つ弱さに興味があるからです。私自身、弱くて醜い人間ですから、テーマは私の中に無尽蔵にあるんです。ほかの絵は、描けません」

表情ひとつ変えず、一気についてのけて、

「英雄的に生きてきた人間は死にやすいと思うんです。

遠藤周作の『沈黙』に出てくるでしょう、踏絵をとうとう踏んでしまつて、神を恐れ、泣きわめきながら死んで

ゆく主人公、あの弱さこそ人間の本質じゃないでしょうかね」

そんなに一徹に思いつめ、自分の内なるものにばかり視点を向けていたら、窒息してしまうんじゃないかな。

「いやですねえ、自分でも……。だから、もう疲れますよ」

平均して年間五十点ぐらいしか制作しない。まとめて描いたら、あとの半年は遊んで暮らす——というペース。

「惰性で描いたりすると『こんなヘタなのを……。』といわれるような絵しかできません」

画商相場で号（ハガキ大）十万円。「高いですよ。描いた本人が買えないんだから……。」というお値段である。

じゃ、いったい誰が買うんです？

「だれか金持ちのところへ入ってしまうんです。これが



悩みのタネですねえ。かといって、自分でどこかへ寄贈するというのは、思い上がりみたいだし……」

まじめとおうか、思いつめ型と称すべきか、とにかく誠実なのである。雑文を書きとばしている当方、なにやら消え入りたい気分に見えられ、しばし沈黙——。

こんなときは女性の話に限る！

ご覧の通り、役者にしたいような二枚目。さぞモデルでしょうが、美女の絵がありませんねえ。

「ダメですな。きれいな顔かくと、表情がなくなる。人生の憂いみたいなシワは、としよりにならないと出てきませんから……」

絵のモチーフにはならなくても、実在の女性は愛すべきでしょうが……。

「大きらいです。日本の女性の七割は迫力が無い。肩のうしろにお父さんやお母さんが覗いている感じでね、何のために生きてるかわからないところがありますね。相手の心が動いたりすると、もうただ泣いて心情に訴えてくるだけ。あれじゃ相手に罪悪感を植えつけるばかりで、人間的な対話ができませんよ」

オヤオヤ。なかなか実感的解説。よほど不条理な罪悪感に悩まされたみたい。

「いや、これでも本人は一生懸命に生きているつもりなんです。あなたならわかってくれるだろうけど、ちょっとしたズレで周りに迷惑かけて、とやかくいわれましょね……」

いちど「不覚をとって」結婚したが、いま実質的には独身。いや形に添う影の如く、身近にはべる美女がいるとかいないとか。まア、武士は相見互い。下司のかんぐりは、やめときましよう。

「世の中に向かってギャーツと叫びたいときが青春なら私はいまだに青春。きれいごとばかり申し上げたけど、ほんととはキタナイ人間ですよ」

ほろにがい自嘲が一瞬、彫りの深い表情に走って消えて——、二枚目はいいなあ。

長崎・平戸の生まれ。人ぞ知る、あの下着デザイナー——鴨居羊子さんの実弟である。

「子どものころ、図画の時間は遊ぶものと決めていたから、いつも丙でしたねえ。それより、私は（こちらをヒタと見て）新聞記者になったかったんですよ」

冗談じゃない。絵かきさんの方がずっとカッコいいですよ。

「いや、絵かきなんて、世の中に意味のない存在だと、自信をなくした時にいつも思いますねえ。それに比べて新聞は邪悪に対して筆誅を加えられる。東亜日報のたかいなんか、胸ゆさぶられる想いでした」

潔癖な正義派、豪胆な親分肌、テレ屋で寂しがり屋……この人の評価は、大体この辺で一致するらしい。

「私、会社勤めしたことないから、人間関係の視野が狭いんです。浪花節人間のくせに浪花節をきらうところもありましてネ」

そうはいっても、たとえば夜のちまた、昼の研究所でこの人を取り囲む青年たちの何と多いことか。

その名も「ゼロの会」——二紀会を脱会した若手組、集団就職くずれ、家出娘（失礼！）……と、なにやら得体の知れぬヤングの集団が百数十人。人呼んで「鴨居玲の親衛隊」——

何もわからない連中が集団でモノを考える。県立近代美術館の天井を突き抜ける松の木をつくったり、大砲ぶつ放したり、噴水に洗剤ぶちこみ泡だらけにして「これが作品だ」なんて……。

「私は遊んでもらうだけなんです」と謙遜してみせたり、「今度ば個人個人にデッサン教えます」と意欲を燃やしたり、「どうも若い人には私の方から甘くなりがちで……」と本音を吐いたり、親衛隊の話になると舌の回転もいささか滑らか。本当に青年たちが好きなんだろう。なにしろ「アミダくじで当たった奴をヨーロッパへ行かせてやる」などと言い出し、本当に実行したこともあるんだから。

「ああ、あの話ねえ。実は私が若いころ、先輩の絵かきに「君もバリへ来いよ」なんていわれて、こっちは貧乏で、それどころじゃない。大いにシラケたことがありましてね。それをフツと思いついたもんだから、よし、おれがタナボタを実現させてやろうということになったんですよ」

痛烈な皮肉と反骨と稚気。三宮のバーあたりからカンパを募り、たちまち五十万円を集めた、その人気も拔群！

で、五年間のスペイン暮らし。収獲はいかがでしたか。
「……いろんな事に出会い、たくさんの人を知った、ということですかナ」

どうして神戸へ「帰って」きたのですか？
「ミラノかメキシコか日本へ、と考えてたんですよ。日本なら神戸。やはり、太陽の輝いてる神戸が好きなんですよ。ここで死にたい、いや、生活したいと——」
おっ、いい直しましたネ。じゃ、また次はどこかへ——？

「メキシコですねえ。ラテン系は好きなんです。白人と黄色の接点ですから……」

また、ちよつと出かけてくる？

「いつも「ちよつと」なんですすよ。五年なんか、アツという間のこと。（悲しげに）学、成り難いです」

微笑が浮かんだ。深く、にがく、くらい微笑だった。



愛犬チータのぬいぐるみも登場。おかえりなさい鴨居玲さん。



東京

池袋バルコ店

東京都豊島区南池袋一丁目二八二

電話 〇三九八七〇五六一(直)

日本橋東急店

東京都中央区日本橋通二丁目九二

電話 〇三二二一〇五一(代)

渋谷東急店

東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一

電話 〇三四七七三四〇九(直)

銀座コア店

東京都中央区銀座五丁目八二〇

電話 〇三五七三二五二九八(代)

神戸

本 店

神戸市東灘区青木五丁目一五一九

電話 〇七八四五二五二九〇(代)

さんちか店

神戸市生田区三宮町一丁目一

電話 〇七八三三三一一七〇〇

き
もの
と
細
貨

おんがら屋

こどもの日の

楽しいプレゼントに...

——たくましい子を祝う武者人形は

おもちゃのカメヤで——



おもちゃの



カメヤ

三宮方面でのお買物は...

ミナミ宮 三宮店

ファミリータウン
センタープラザ

★391-4045
★331-4969

元町方面でのお買物は...

元町店
パンブウ店

元町通3丁目山側
元町通1丁目二家前

★331-0090
★391-0768

神戸駅前方面でのお買物は...

サンコラベ店

神戸駅前地下街

★351-6002

★神戸の集いから

★大入り満員、大盛況

ノコの眼に思わず涙

「結婚するバカしないバカ」を2月14日に発行したアナウンサーのノコこと小山乃里さんが2月19日貿易センター23階で出版記念パーティーを開催した。人気者のノコさんの処女出版とあって予定を上回る約二百名の出席者。ドライアイスの煙の中を鮮やかなロン



お祝いに馳けつけた人々。ドレスがステキな？ノコさん



グドレスに身を包みノコさんがしずしずと登場。朝日放送道上洋三さんの流暢な司会にのせて、ラジオ関西の青木啓さん、乾龍介さん、推薦文を書いた田辺聖子、

カモカのおっちゃん夫妻、

表紙絵の鴨居羊子さん、馬場章夫夫妻、織田正吉さん、佐藤藤さんらが次々とお祝いのスピーチならぬスピーチ。出版記念パーティーというより宴会のような賑やかさ。表紙絵のモデルそっくりにお色直ししたノコさんを中心にゲームがくりひろげられ、会場一杯に全員でサンパ。最後にお礼の言葉を述べるノコさんは感極まつて思わず涙。しかし、しみみりとしたムードも束の間、ヤジが飛び出し、「私が主役なんヨロ！」といったもの調子で、ノコさんらしい爆笑のエピソードだった。

★おかえりなさい鴨居玲さん——神戸二紀会例会

3月6日生田会館で神戸二紀の例会が開かれた。

スペインより帰国の鴨居玲画伯の歓迎会、第22回神戸二紀展の反省会、第二回女流展を開くにあたっての報告会など気相々のうちに行なわれた。神戸二紀のメンバーの多彩さチームワークの良さは周知の事実でこの日も中西勝、西村功、

小西保文、山本文彦……と会

員に加え、来賓として招かれた佐藤藤、森本泰好、野木良郎、西正興、岩島雅彦、木村憲吾とおなじみの顔がニコニコと集った。



鴨居玲さんと挨拶する中西勝さん



「私の村で種なしスィカのタネが問題になって……」と歓迎

の言葉に答える鴨居さんの軽妙な挨拶、シシ舞ならぬセントパード舞が飛び出したり、歌ったり、歌った人が100円出したり、とにかくにぎやかだった。

★近衛真理のミニ

コンサート開かれる
サン・テレビで毎水曜日

放映されている「こんにちはノ奥さん2時です」に小曾根実とコンビで出演している近衛真理、八元宝塚スターVのミニ・コンサートが去る3月12日(土)午後7



ミニコンサートに集まった人々

時からサロン神戸時代で開かれた。ピアノは矢野正文さんで、近衛真理さんは得意なジャズのスロー・バラードやスタンダードナンバーを歌ってファンは大変な喜びようであった。

ちょうどこの期間は壁面は「川西祐三郎画伯」の版画も展示されていて参加した人は「絵があつて素適な歌を聞いて、お酒があつて会話がある。やはり、これからのこんな集いはぜひ楽しみたい」と大喜びであった。



動物園飼育日記 -128- 亀井一成



訪中シリーズ〈7〉 小貓熊レッサーパンダ



「いや、ほんまに、この寒さむちゃくちゃでんな！」
まさしく氷河期到来のきざしだ！と取りざたされた今冬
の異常寒波。わが神戸でも史上最低記録マイナス六度
が連日続いた。

しかし、耐寒マイナス二十〜三十度というホッキョク
グマにペンギン一家。さらにはシベリヤオオカミ一属
はさすがであった。積雪の夜。どれもこれもが入室を拒
否。凍てついた屋外に出っぱなし、真っ白な終夜をまし
ていた。

四年前の十二月二十七日。室温20℃以下にしてはダメ
すぎま風に弱い。大声。物音。絶対に触れてはいけない
ともかく腫れ物にさわるごていねいなる輸入業者のご注
しやくを耳にしながら二頭のレッサーパンダが到着。受
入側の我々の見識からでは考えられない過保護ぶりに反
論さえあえてした。だがその獣医であるご家族からのご
注言だからということから赤外線などで暖房。扉のメバ
リさえしてしまった。

その年はむしろ暖冬異変とさえいわれ、しのぎやすい
越冬だったが、間もなく一頭が死亡。残る一頭も過保護
によるノイローゼ。そこで解放すべきと考え、氷点下で
あるうと土を踏ませる屋内外自由行動飼育に踏み切った
らどうだろう。からだはひきしまり、毛なみはいちだん
とさえ、オスの風ぼうさえ整ってきた。そればかりかつ



広州動物園のレッサーパンダ

れあいを探す行動つまりマーキングさえ見せる彼に我々
は新しい嫁探しと相なったのである。

だが、ネパール、中国の雲南省、それにビルマ北部に
分布するレッサーパンダも入手がきわめて難かしくその
一年後、二頭のメスが遅ればせながらも到着したことは
まことに幸運といえた。

だんまり飼育よりも呼びかけるおしやべり飼育。それ
に何よりも半夜行性である彼等に夜の自由を与えよう
と、終夜屋内外自由。いや、たとえ寒かろうが、彼等に
「寝くら」をえらばせる。いいかえれば言葉がわるい
が、「放ったらかし飼育」を続けた。

その三頭になったレッサーパンダご一家がまた、この
極寒の今冬にも一夜として入室したことがない。氷点下
の連日を屋外で、しかも地上でも地下でもなく二メート
ルという屋根の上にごろ寝をきめこんでいるのである。
鋭い鉤爪をもつ彼等は木登りがたくみで餌を食べたあ
とはほとんど木上に身をひそめている。それがまた、ブ
ラス三十五〜六度という猛暑からマイナス二十〜三十度
という温度差にも動じないのは、何故だろう。それは彼
等と生棲園を同じくするアジアの獣王、トラなどへの防
御行動ではなからうか。丸太作りの屋上に胴長よりも長
く、ふんわりと大きな尾をくるりと器用に巻きつけふと
ん代り、三頭がまるでおしくらまんじゅう。寄りかたま
って寝ているのだ。

「おどろく人なつつこさ」

「あつ！あんなところに、ほんまもののエリマキがひっ
かかっている！」

その毛色と毛並の良さは古くから貴婦人たちにとって
の高価なファッションである。

ところで、私、思うのだが、昨今の毛皮ブームに元町
や三ノ宮、それに山手、北野町かいわいで見かける毛皮
コートのはんらん。それなのに何故か動物園にお越しに
なる方々に毛皮コートが見かけられない。ふふん、やつ
ぱり、染色やカッティングの「にせもの」であることがば

れるのがこわいのでしようかいや、それとも生きている彼等にすまなく思うのかも……。

さて、大声・物音・触れてはダメ。とんでもありません。まるで家ネコ。見てる我々がはらはらお客さんの姿さえ見えたら、するすると身軽るにヘンスを登り、近寄っては金網越し、首から、背、さらには太い尾を、あのネコと同じ、眼を細めこすりつけてくる。それがまたどんなにでも、可愛さをふりまいてくれるのである。

もちろん例外もあるが、総じて攻撃的な態度を見かけたことがない。(網やオリでの捕獲時は別)

〔真冬のラブシーン〕

さて、さらにまた、この寒風の中、しかも少しでも暖かな日中ではなく、早朝と夕暮れどきである。そのまるまっけていた太い尾をピンとのびし、しやなりと歩きだしたメスが地上に降りる途中、木かぶにちよいとお尻をこすりつけはじめた。どうだろう。その性臭に刺激されたオスたち二頭。全く同じコースを歩み、同じ木かぶを鼻で嗅ぎ、鼻先を空にひと呼吸やっている。つまり、メスのさそいについているわけだ。

こうなると二頭が争ってメスへのプロポーズが始まった。だが待てよ、確かにオス一頭の処へ

メス二頭を輸入したはず。それなのに追尾するのは二頭。行動を仔細に見るうち、性器も見え、どうやら、オス二頭のように。到着時捕えて性別チェックをすべきこと、あえてしなかった。いや送って頂いた相手方からもメス二頭と書類にも記されていた。これ全て云訳けではない。

二月末。約十日間でそのラブシーンは終ってしまったが、すでに我国では北海道と九州で繁殖している。それでも誕生すれば関西初。いや、何番めであろうとかまわない繁殖をめざした飼育を基本とすべきこと私の一貫した信念なのだから……。



王子動物園のレッサーパンダ

〔中国では米一〇の木上飼育〕

ところで昨年八月に訪中一カ月。天津、北京、西安、広州、上海、と各動物園を見学、かのジャイアントパンダ十九頭を見聞。その都度、隣り合せて飼育されたレッサーパンダもまた仔細に見てきた。

体重四キロ少々、身軽な彼等は日中ほとんどを一〇米という高い植樹の葉蔭で、ゆらりゆらり風にゆれながら眠っていた。だが、夕暮れにはが然動きだし、さっと地上に降りては食前食後、ササをゆっくり、あのパンダ座りに腰をすえ食べ続ける。

昼に弱く夜に強いという夜型。それにまた、何よりも再認識させられたのは、一〇〇メートルの高地に生棲しかも耐寒性に強くその毛皮からしてもまさしく冬の動物なのである。

〔食性〕

飼育下のエサはバナナ、煮サツマイモ、ミカン、リンゴ、牛乳、オートミール、パン、卵、サトウキビ、それにタケやササの葉。

ところで食事どき、つい争いを見せる他の動物とは少々ちがっている。何しろ大陸的。育ちの良さがしのばれ、同じ所に寄りかたまつては口を揃えて食べ続けている。それがまた、ご一家寄り添ってのデイナータイム。そのままだ。

たとえよく馴れようが、食事中の動物には手を出さないことが常識となっている。

だが、レッサーパンダはその常識さえ要らない。口にしてはいるものでも相手に取られればなし。ゆっくり食べひと口食べては、またオリの中をひと回り。そしてまた食物をとるといふほんまに、おとなしいパンダたちである。

△王子動物園学芸員／写真も▽

★神戸の催し物ご案内

4月

△音楽▽

★アリス

3日(日) 2時 神戸文化大ホール
A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★布施明

4日(月) ①3時 ②6時半 神戸文化大ホール A・三〇〇〇円 B・一五〇〇円

★大阪フィルハーモニー交響楽団

6日(水) 7時 神戸文化大ホール 民音／一七〇〇円 一般A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円

★沢田研二

7日(木) ①2時 ②6時半 姫路文化センター A・三〇〇〇円 B・一五〇〇円

★佐藤陽子ヴァイオリンリサイタル

9日(土) 6時半 芦屋ルナホール 前売・一五〇〇円 当日・一八〇〇円

★レモン・ルフエブル



レモン・ルフエブル

11日(月) 6時半 神戸国際会館 S・三〇〇〇円 A・二七〇〇円 B・二四〇〇円

★住田政男フラスコギター

17日(日) 4時 西宮市民会館 二〇〇〇円

★映画音楽名場面集

20日(水) 6時半 神戸国際会館 民音／二〇〇〇円 神戸交響楽団

★大阪フィルハーモニー交響楽団



伊藤 ルミ

21日(木) 6時半 神戸国際会館 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

指揮／手塚幸紀 ピアノ／伊藤ルミ

★太田裕美・森田公一とトップギヤラン

22日(金) 6時半 神戸文化大ホール 音楽友の会／会員S・二〇〇円 A・一七〇〇円 一般S・二五〇〇円 A・二二〇〇円

★ロンドン・ピアノ・トリオ



ロンドン・ピアノ・トリオ

22日(金) 7時 神戸文化大ホール S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円

ピアノ／マイケル・ロール バイオリン／藤川真弓 チェロ／リチャード・マクソン

★神戸大学マンドリンクラブ

23日(土) 6時 神戸文化大ホール 三五〇〇円

★アプリルコンサート

25日(月) 6時半 県民小劇場 五〇〇円

★神戸女学院アメリカ民謡クラブ

27日(水) 5時半 神戸文化小ホール 二五〇〇円

★神戸波の会新人推薦音楽会

27日(水) 6時半 県民小劇場 一〇〇〇円

★マルチエラ

29日(祝) 2時 神戸文化大ホール S・二八〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円

★デュークエイセス

30日(土) ①3時 ②5時45分 神戸文化大ホール 前売・一五〇〇円 当日・二〇〇〇円

賛助出演／神戸放送児童合唱団

★青年座「からゆきさん」



東恵美子 久世龍之介

8日(金) 9日(土) 11日(月) 10日(水) 14日(木) 6時15分

13日(日) 1時半 神戸文化大ホール 労演／一八〇〇円

出演／東恵美子、初井言栄、今井和子、大塚園夫、久世龍之介ほか

★民音浪漫劇場「からゆきさん」の9日(土) 6時半 神戸国際会館 民音会員／一六〇〇円 一般・二〇〇〇円

出演／緒形拳、沢田亜矢子、石橋幸、市村俊幸ほか

★劇団ふあるむ「アンチゴース」16日(土) 4時 17日(日) 1時 芦屋ルナホール 六〇〇円

★ソビエトバレエ映画祭 6日(水) 7日(金) ①9時半 ②1時半 ③6時 神戸文化小ホール 前売／大人・八〇〇円 小人・五〇〇円

★民音落語会「リレ」落語車の旅」7日(木) 6時半 神戸文化小ホール 民音／一〇〇〇円

★市民映画劇場「地の塩」17日(水) 16時(土) 23日(水) 1時45分から四回上映 神戸文化小ホール 前売・七〇〇円 当日・一〇〇〇円

★藤間緑寿郎 24日(日) 10時 神戸国際会館 二〇〇〇円

★白鳥の湖 25日(月) 6時半 神戸国際会館 S・四〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★レモン・ルフエブル グラ

4月11日(月) 6時半 神戸国際会館

S・三〇〇〇円 A・二七〇〇円 B・二四〇〇円をそれぞれ割引

★ロンドン・ピアノ・トリオ 4月22日(金) 7時 神戸文化大ホール

S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ割引

★エンリコ マシアス 5月2日(月) 6時半 神戸国際会館 S・三〇〇〇円 A・三〇〇〇円をそれぞれ割引

★松山バレエ団「白鳥の湖」 4月25日(月) 6時半 神戸国際会館

出演／森下洋子、清水哲太郎ほか S・四〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ割引

★新国劇「無法一代」田村 4月25日(月) 6時半 神戸国際会館

出演／辰巳柳太郎、大山勝巳、小山明子ほか S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ割引

★スリディグリーズ 6月2日(木) 6時半 神戸国際会館 S・三八〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円をそれぞれ割引

ご希望の方は電話かハガキで神戸っ子編集室・優待係ハ川崎Vまで一割引



辰巳柳太郎

□座談会／神戸の良さを考える

創造のアイデアがある街

□出席者△神戸百貨会メンバー▽

永田 良一郎 △永田良介商店社長▽

下村 光 △神戸風月堂専務▽

島田 光 夫 △つるや衣装店社長▽

鳥越 哲 △神戸眼鏡院専務▽

安達 昭 三 △フナキヤ社長▽

川飛 毅 晋 △とんかつ武蔵専務▽

★外国人に接した良さがにじみ出た街

川飛 来年、青年会議所の全国大会を神戸で開催するんですが、その前に問題になるのが神戸らしさ、神戸とは何かということですね。神戸は山と海とに挟まれた東西に長い街であることが一つの特徴ですが、それを有効に使えるかができると思うんですね。

安達 元町の商店街にはPR委員会というのがありまして、近畿エリアに神戸をPRしようではないかという目的で、昨年テレビ用のコマースリアルムを作ったんです。その時に神戸の良さというものを追求してみると、誰もが承知の、海があって山があって、異人館があり、外国人がいたために発展してきたといういわゆる神戸ら

しい食べ物屋があって、というような絞り方でしかコマースリアルムを作るにはとらえどころがなかった。そこが神戸の良さやということが結論的になってフィルムを作ったんです。何が神戸の良さなのかという最もむずかしい問題にあたると、外国との接点ですべてのものをいちはやく神戸流にこなして日本人向けにアレンジして発表してきたというアイデアマンの集合のようなものが神戸の評判として今日まで続いてきているんじゃないだろうかともやもやとしたこと神戸の良さのひとつみに感じますね。

島田 港町、海、というイメージはね、昔はもつとあがれたでしたね。

永田 どちらかというと懐古趣味的な対象として、いわゆるハイカラということばがピッタリするような感じで



下村 光治 さん

若い女の子たちに受けてみたい。神戸の雰囲気というのは、使ってみて初めて良さがわかるといふようなもので、切り売りしてもダメですね。神戸の街が百年で育ててもセレクトする目とかね、そういうものを総合したのが神戸の良さでしょう。

下村 外部からみると「神戸」ってのは今のところまだカッコイイですね。売れるんですね。何にしても神戸の人間が仕入れたもの、作ったものというのが、神戸の人間の目でもって見た商品だからこれはまあええもんじやなかろうか、と外部の人たちにも認識されてそれが購



永田 良一郎 さん

売につながってるんじゃないかと思えますね。ところがそんなに神戸が、あるいは神戸のものがいいのだったらいっぺん行ってみようということで、来てみると何だこんなものかというようにならないように気をつけないけませんね。

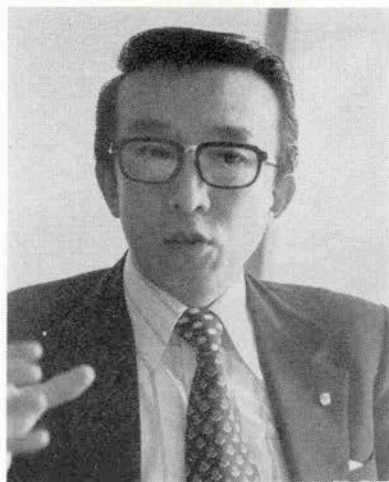
永田 港があつて外国人に接した良さが自然ににじみ出たのが今までの神戸の持ち味でしたけど、今後それを維持していくには、我々自身が神戸らしさを強調していかないといけない時代に入ってるんですね。今非常にもはやされているのを維持していくのに、今までは努力しなくても良かったけれど、もう努力していかないとダメな時代なんです。

★アーケードのない青い空のみえる商店街

鳥越 京都や奈良は史蹟が多いところで、ただ観光でそれを見てまわるだけだったら京都や奈良のほうがいい。一概に否定できるものではないけれど、それは歴史が止まってるんだと思うんです。神戸の場合はそういう史蹟が動いていて現在の世の中にマッチしている。それは何かというと、情報が交換できる場であるとか、人間が欲しているものが神戸から生まれ出ているとかいうことでですね。これが神戸の一番自慢できることじゃないかと思う。要はこのままでいると、何年か経つと京都や奈良と同じになってしまう。ここで気がついてきて何をしないといけないかというと、商売人がそのような神戸という恩恵を受けながらそれにマッチする動きを日々重ねていくということなんです。

島田 商店街にしても街の通りにしても、自分のところの前だけという感覚でなくて、通りとしての、また街全体としてのものを考えないといけないですね。

永田 神戸の明るさを出すアーケードのない商店街をつくっていかないとダメですね。このごろ思ってるんですけど、アーケードというのは商店街のそれぞれの店の個



鳥越 哲さん



川飛 毅晋さん

性を出すうえでひとつの弊害になつてゐる気がするんですよ。都市計画で真っ白な建物の中にほおり込んでいったらいいって店ではなくて、それぞれの店が個性をもった店構えをし、その個性をもった商店というのを売っていくのが神戸の良さだと思うんです。アーケードで上を全部かくしてしまうと画一的になつてしまつて、自分の店がいったいどこに位置しているのかもわからず、ただアーケードの下と店内さえ考えればいいようになるんですよ。個性ある店作りをする努力を失わせてしまうようになるんじゃないかと思ひますね。

島田 ひとつずつの店それぞれに個性がないといけないですけど、バラバラに建てるのと街並み全体が雑多な感じになつてしまふ。整然とした都市美というか、量が多いとわりと整然としてくるんですが、そうなるってことは逆に個性がなくなつてくる。建物の高さも都市美に関係してくると思うんです。今のアーケードも高さの加減をごまかしているカサのようなものですよ。街並みを作るうえで、高さをそろえての個性ある店を集めさせるのがいいんじゃないかと思ひますね。

鳥越 神戸は中に入つてでしか感じることに、わかることができない街ですね。だからそれだけにホンモノでないといけないんです。神戸には地道につくりあげたものがあるから、それをもっと強調していく、それにはムードが必要でね、そのムードというのは例えば青い空があるとかということですけど、とにかく神戸の街の総合体で雰囲気づくりをしていかないといけないんです。アーケードの問題でも、どこかの街で初めてアーケードを使い始めてそれが成功したから神戸に導入したんじゃないかと思うんです。つまりこれは他からもつてきたものなんです。神戸は創り出すアイデアを持っているのだから神戸から生まれ出たものでないと必ずぶつかりがあるんです。ひとつの例だけど、海外から人が来て東京や大阪へ行きますでしょ。そこから流れて神戸にやつて来るんですよ。神戸はあまり他にPRされてないから、何となく神戸に来てるわけなんです。ところが神戸に来てもものすごく良かったという。単純だけれど青い空、山あり海あり、色彩が人間的に合うつていうんです。安達、いい方を換えればね、要するに「洋」という字、洋食、洋家具、洋酒、洋間、洋服、そういう洋の字をはぶける街が神戸なんです。神戸では洋服は「服」でいいわけ。洋という字をあえてつけないでもいいのが神戸なんです。異人館つていうけど、その「異人」を異人でなくしたのが神戸の精神だと思ひます。ワイシャツを作つたのも、服の縫い方を一生懸命習つたのも神戸だし



安達昭三さん

ね。

★神戸ではニセモノはダメですね

島田 神戸の人ってのは個性的というか、見る目が厳しいのか、神戸ではニセモノはダメですね。個性的というかとんでもないのが出たりね（笑）。

鳥越 他のといっしょだったら嫌なわけなんです。自分の獨創性があるんですね。神戸の場合は他からもってきた流行ってのは嫌いなんです。神戸で流行を作ると、神



島田光夫さん

戸の人間がただやってるだけのことなのに神戸の魅力になるんですね。

安達 植民地都市とちがって、自分でみがかれたセンスとアレンジのうえにたってセレクトしますから、商売するにのむずかしさがあるんですね。東京のミユキ族とか青山族とかは、親元を離れた無責任な人間が多いんですね。文句をいわれるところがないから自分のしたい恰好ができる人たちでああいう特殊なフアッションになるんですね。神戸では絶対に売れない。みんな親元について、アンタ何シテンノノっていわれる。髪にしても、早刈りなさいノっていわれるんでなかなか長髪族が増えなかったのも神戸。

永田 世間の狭さっていうことやね。それはやはり大事にしないといけない。

鳥越 神戸は狭いから地道にホンモノを作りだすことをするんですね。狭いからそれだけ商売人が神経を使って神戸全体としてのフアッション都市、情報都市というムードがでてくるんじゃないでしょうか。そこで段階的に考えていかないといけないけれど、青年会議所でよくいうのが、国際会議都市というようなイメージにもっていけないものかということです。そこにはもう一つ上のレベルでも情報が集ってくる。いわゆるカニ族的なレベルの人たちでなくて、もう少し上がったレベルの外部の人が集ってくるんじゃないかと思うんです。しかも断片的に少しずつこなしていくだけではダメで、何らかの機関で意志統一をする必要があるんじゃないかと思う。

川飛 フアッション都市神戸としてやっていくには、地元の商店はもちろんのこと、そういうものを目指すんだという目的のもとに全市的に足なみをそろえていかないとけないですね。着る物はもちろんフアッションだけれど、食べ物も家も道も全部がフアッションだと考えて、それぞれの形で参画していくことが必要なんですね。

（プラン・ドゥ・プランにて）

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
 <神戸のファッション都市化をめざす>

K.F.S. news 19

事務局/神戸市生田区元町通 2 丁目 37 村田ビル
 デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

● 2 月 マンスリーサロン 大谷武司講師による「新しい消費者層について」

2 月の例会は 18 日（金）、神戸マーケッティングセンター調査部長の大谷武司さんを講師に迎えて「新しい消費者層について」と題した興味深い内容だった。

「一九七〇年代の社会は予測しにくい変化の時代といわれますが一九八〇年代についてはもともと窮屈な快適度の少ない統制的国家になるといわれています。つまりプライバシーがなくなり監視されている社会というのでしょうか。県民世論調査でも退屈、落胆などを表わす黄色や灰色が未来の色と出ています。こういう時代にこそ企業が消費者だけでなく生活者に、生産、販売促進といった総ての企業活動を含んだマーケティングが必要で、今までの荒地地ならしを目的とした大量生産のマス・マーケティングの時代は過ぎました。もっときめの細かい地域の独自性を活かした人の心に訴えるようなマーケティングに需要が高まってきているんですね。『人間学』といえるかな。だから企業は商品にしても、『物』を作っているだけではだめなんです。今までは付加価値といわれてきたフィーリング、五感に訴えるものが大切なんです。これを物パナレ商品とよんでいますが、工業社会から情報化社会に移行したんですね。特に若い人にはその傾向が強いようです。神戸などは市民性から生まれてきたパーソナルローカル色が豊かですから特に考えなければなりません。消費者の欲望を想像して先取りした企画をたて小さな市場の中でユニークな商品づくりが求められるでしょう。」このあとのディスカッション



大谷武司さん

大谷武司さんは神戸マーケッティングセンター調査部長です。今回の講演では、新しい消費者層について、国家の未来の色、生活者の意識、企業の活動などについて、最新の世論調査の結果や、マーケティングの重要性などについて、具体的な事例を交えてお話されました。大谷さんは、神戸市生田区元町通 2 丁目 37 村田ビルデザインルームナカハラ内に事務局を設けていると伺いました。

ンでは会員から積極的な意見も述べられ活気のある会だった。

● 会員 ニュース

【西条幹男さんへ服飾・ミロー】



西条幹男さん

兵庫県洋裁技能協会主催（兵庫県及び商工会議所共賛）のファッションゼミナールが 4 月 2 日（土）と 5 月 1 日（日）と二回開かれます。4 月 2 日は講師に立見良三さん（ハフアッシュンデザイナー）を迎え「ヨーロッパ観察局第一声」と題した講演とバイリン・縫製技術指導を窪田茂子さんが行なうと、神戸大丸店服飾デザイナーの大西節子さんによる講演があります。5 月 1 日は中西省伍さんハフアッシュンデザイナーによる「クリエーターはこれからどう生きるべきか」をテーマに講演と同じく窪田さんによる技術指導です。両日とも午前 9 時から午後 5 時まで、場所は県民会館 10 階（A-1003 号室、1002 号室）会費は二日間五千元です。受講者には修了証書が贈られます。皆さんふるってご参加下さい。申し込み、お問い合わせは兵庫県洋裁技能協会事務局 361-0101 61 か服飾・ミロー 21-13205 まで。

【大西節子さんへ大丸神戸店服飾デザイナー】



大西節子さん

大丸神戸店に、服飾デザイナーとして、この道を歩んで早や 20 年、ますます服作りの魅惑にとりつかれる今日のご様子。今年に入りまして、1 月 27 日、フランスにおける、オートクチュールコレクションをみて、パリのジョルジュ・ジャンクに店を持つジャン・シエールの作品を日本に運んで参りました。3 月 26 日は、神戸のオリエンタルホテルにて、そのコレクションを聞き、神戸の指様にジャン・シエール・オートクチュールのエレガンスを、あじわっていたくことが出来る喜んでます。重宝として、ぜひご覧ください。又、去る 2 月 19 日には、神戸文化ホールグリーンシアターにて、大丸二階ジャン・シエールで女性の指様に美しくエレガントに装っていたくため努力致しています。

K.F.S. 4 月例会・春のツアー

京都市内観光（西陣織物・友禅染め見学）
 日時 4 月 17 日（日）京都駅午前 9 時半集合
 会費 2000 円（昼食込み・貸切バス）
 定員 48 名（どなたでも参加できます）
 申し込み先 デザインルームナカハラ内
 電話 391-4768 まで。

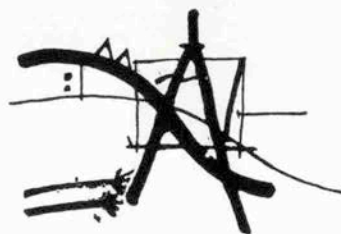


ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290

額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309・6243

おすし
てんぷら



栄彌



本店 大丸前・三宮神社東

TEL (331) 56772

(毎週水曜日休み)

支店 さんちか味のれん街

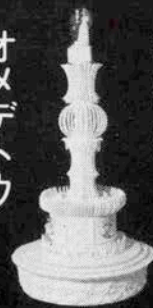
TEL (391) 5233

(第3水曜日休み)

営業時間
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

オメデトウ

御結婚



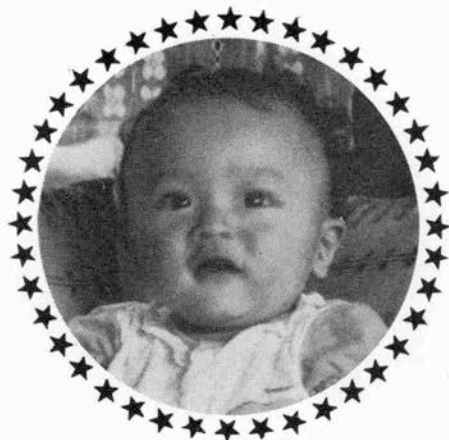
*ウエディングケーキご婚礼お引出菓子予約承ります

北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市灘合区熊内町1-8(市立美術館東隣) TEL 221 1164
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸デパート・元町店

こんにちは赤ちゃん



中熊知一くん/兵庫区会下山町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

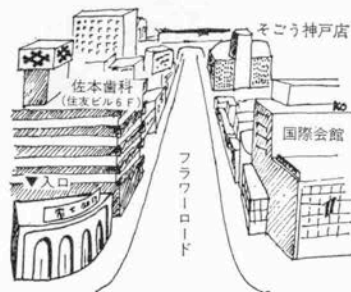
SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分
金曜日 午後1時30分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階
〒650 生田区加納町5丁目39
TEL (078)331-6302~3



★神戸っ子トラベルコーナー

★第2回東アフリカサファリと最後の楽園セイシェル

日程／8月11日(木)～8月22日(月)

費用／¥579,000

定員／13名

申し込締切日／6月10日(金)

費用に含まれるもの／航空運賃、食事代金(3食付)、ホテル代金(スタンダードクラス)、手荷物代金(一人20kg)、サファリ・パス、添乗員サービス

費用に含まれないもの／渡船手続実費、バスポート、予防接種及び手続手数料、クリーニング、電話、飲物等の個人的費用、20kgをこえる手荷物

大阪→東京→ナイロビ→アンボセリNP→ゴンゴロクレター→セレンゲティNP→マサイマラ→ナイロビ→セイシェル→東京→大阪



雄大な大自然を満喫できる東アフリカ

万年雪をいただくキリマンジャロから昇る雄大な朝日、大草原にゆくゆく沈む夕日、見渡す限りの動物の群……。こんな雄大な大自然が東アフリカです。

お申し込み、お問合せはドットウエルトラベルサービス神戸(〒4区磯上通8-37、明治生命ビル)担当/島村 2511-0021まで。

★受講者サービス企画

ハワイツアー

日程／6月7日(火)～6月12日(日)

6月18日(土)～6月23日(木)

費用／¥139,000

定員／140名

大阪発→東京→ホノルル→東京→大阪着

ハワイアンハットディナーショー

ポリネシア文化センター、シーライフパーク、カウアイ島、ハワイ島のオブショナルツアーなど

滞在中の昼夕食、オブショナルツアー、個人的費用、空港税、国内費用、渡航手続費用などは費用に含まれません。

申し込みべ切／5月6日(金)

お問合せ、お申し込みは月刊神戸っ子トラベル係 2246

★ゴールデンウィークシリーズ

1ヨーロッパラックス9日間

日程／4月28日(木)～5月6日(金)

費用／¥453,000

大阪→東京→リスボン→マドリッド→パリ→東京→大阪

2 ソウルツアー3日間

日程／4月28日(木)～4月30日(土)

費用／¥78,000

全食付、アクラスホテル

大阪→ソウル

3 台北ツアー4日間

日程／4月30日(土)～5月3日(火)

費用／¥135,000

ホテル→台北

4 ハワイツアー6日間

日程／4月30日(土)～5月5日(木)

費用／¥255,000

アクラスホテル(朝食4回・昼食

1回・夕食2回)

大阪→東京→ホノルル→東京→大阪

5 ソウルツアー3日間

日程／5月1日(日)～5月3日(火)

費用／¥78,000

アクラスホテル

大阪→ソウル

6 香港ツアー4日間

日程／5月1日(日)～5月4日(水)

費用／¥135,000

大阪→香港

7 台北ツアー4日間

日程／5月2日(月)～5月5日(木)

費用／¥135,000

アクラスホテル

大阪→台北

お問合せ、お申し込みは国際トラベル 2511-8186まで

★シューマン・ワイン講演とヨーロッパの旅15日間

日程／4月23日～5月7日

費用／¥598,000

定員／25名

大阪→東京→フランクフルト→オーストリッチ→ジュネーブ→ローマ→パリ→東京→大阪着

ドイツ・フランス・スイス・イタリアの旅を楽しむので、その上ワインの学士号が取得できるツアー

国内で初めての企画です。

★歴史と神話の国「ギリシア」とエーゲ海クルーズ

日程／4月23日～5月5日

費用／¥595,000

東京発→アテネ→コノス島→ロドス島→クレタ島→サントリニ島→ビレウス→イスタンブール→アムステルダム→東京着

余裕をもって、味わいのある場所をユニークな方法で旅をします

お問合せは神戸っ子まで

小泉パーティ ★ご案内

★小泉パーティとは

結婚を希望する男女に交際の場を提供し、良きパートナーを見出すお手伝いをいたします。

結婚に関する一切のコンサルタント、カウンセラーにも応じます。

この度趣味を通しての新しい出会いの場として、美術愛好会、芸術愛好会、レジャー愛好会、文学愛好会、音楽演劇愛好会を発足いたしました。



細川邸での“フランス料理を食べる会”

★スプリングパーティ

ご案内

とき 4月23日(土)午後6時より

ところ ニューポートホテル

かひ ¥5,000円

春の宵のひとときを食事、ゲーム

ダンスなどで楽しく過ごしません

か。申し込み締切は4月17日

神戸市東区浜辺通六丁目三一

三 ニューポートホテル ーF-

一三一 号 ☎ 二五二一三八〇

★小泉パーティ事務局

毎月曜休・一〇時～一八時

ママゴンにささげるバラード④
かわいそうなママ





母の幻覚

英語で相談に応じます

—新しいカウンセラーにミセスグリーンさんが着任

橋本 明 (社団法人「家庭養護促進協会」事務局長)



Mrs. Green

一昨年の十月にカナダ人女性のカウンセラー、グレアム夫人を招いて始めた、関西在住の外国人のための英語による相談事業も軌道にのり、ずい分多くの人たちから相談を受け、また外国人、日本人から多くの協力の申し出をいただいた。グレアム夫人は昨年の三月にカナダへ帰国されたが、わずか三カ月間の間に三十四件の相談を受け、その内容も国際結婚のトラブル、留学生のノイローゼ、仕事、教育、医療、児童問題などさまざまな分野にわたり、複雑なものであった。同一人種、言語、宗教などをもつ島国で生活をしている日本人にはちよつと考えられないような複雑な文化的背景の絡み合った問題が起つてくる。ところが自分の育った国を離れて外国で生活をしているといざという時に身内も、信じあえる隣人もいない場合、言葉や制度、習慣の相違などからどこにも援助を求めることができず、孤立していきづまってしまうことがある。そんな時に、何でも気軽に自分の国の言葉で専門家が相談にのってくれる場所が地域の中に一カ所でもあればずい分安心して生活ができます。国際都市といわれる神戸にはそんな場所がぜひ必要であり、外人相談室の果たすべき役割は大変大きいはずである。

今年の二月からはイギリス人女性、メアリー・グリーンさんをカウンセラーとして迎え、新たな組織づくりを始め、いつでも英語相談に応じる態勢をとっている。

グリーンさんはイギリスのマンチェスター大学で社会福祉の勉強をし、さらに社会事業家としての専門資格をとり、病院の小児病院での長い臨床経験をも積んでいる。

また、十年間インドで生活をした体験もあり、外国暮らしの難しさや外国で生活をしている人たちの立場や問題への関心や理解も早い。

グリーンさんは昨年の十月に初めて来日し、現在はご主人と神戸に二人暮らし。イギリスには22歳、19歳、12歳の三人の子もがいる。日本での滞在は約二年間。

英語でのカウンセリングを希望される方は左記へお気軽にお申し込みください。

★相談日 毎週月曜日 午前十時～午後四時。

★場所 神戸市生田区橋通三の一 総合福祉センター二F 家庭養護促進協会

外人相談室 電話 〇七八一三四一五〇四六

★相談内容 家族、結婚、教育、医療、児童問題などどんなことでも結構です。

★相談料 一五〇〇・三〇〇〇円。日時は前もって電話でご予約下さい。

ENGLISH COUNSELLING DIVISION

Counselling services for the English speaking members of the Kwansai community are available through the Kobe office of the Association for the Advancement of Family Care. Personal, family, marital or educational counselling can be arranged by appointment with Mrs. Mary Green. She will be at the Kobe office between 10 a.m. and 4 p.m. on Mondays; appointments can be made through the office for mutually convenient times on other days. Confidentiality will be maintained.

Most people in the normal stages of growing and learning throughout life and particularly under bi-cultural stress, feel the need for the counselling services of a trained and experienced counsellor, from time to time. Fortunately now, in Kobe The Association for the Advancement of Family Care is offering again through its office a service which is vital to the English-speaking community.

The Association for the Advancement of Family Care is a Japanese organization (Katei Yogo Sokushin Kyokai) with an office in Kobe at The Kobe

City Fukushi Centre on the Second Floor. The address is 3-1, Tachibana-dori, Ikutaku, Kobe, which is close to the Kosoku Kobe station of the subway. Kosoku Kobe is the second stop west from Sannomiya and the Fukushi Centre is opposite Minato-gawa Shrine. Parking places are available.

The Association is incorporated under Japanese law and funded by grants from all levels of government, private donations, and membership fees. The Association has recognized the needs of the non-Japanese members of the community for counselling and is offering space and office facilities at the Kobe office.

Mrs. Mary Green is a newcomer to Japan having arrived with her husband in the autumn of 1976. She has three children in the United Kingdom; a son of 22, a daughter of 19 and a schoolboy son of 12. She has spent 10 years in India and has already experienced the difficulties, as well as the pleasures, of life in a foreign environment.

She is a graduate of Manchester University with a degree in social administration and has a postgraduate Certificate of Training in Social Work from Manchester Polytechnic. She has experience in family casework, in working with young people and in the hospital setting. Immediately before coming to Japan she worked in the paediatric dept. of a district general hospital where family problems were very much to the fore. Her training has included work in schools and she is very aware of the educational problems raised by residence abroad. She has also worked with old people.

The counsellor and location guarantee for the client a nonsectarian, private, and confidential situation in which to work out solutions and alternatives to problems of human relations and growth. Counselling fees will be charged according to income and number of dependents. Applications for interviews are encouraged by telephone (078) 341-5046

THE ASSOCIATION FOR
THE ADVANCEMENT OF
FAMILY CARE

FUKUSHI CENTER 2F
3-1, TACHIBANA-DORI
IKUTAKU, KOBE
TEL: (078) 341-5046

